

静岡県浜松市におけるスタートアップ支援・ 産学官の連携について

2024 年 11 月 12 日
一般財団法人しんきん経済研究所
森 達也

1. 現状の認識と課題

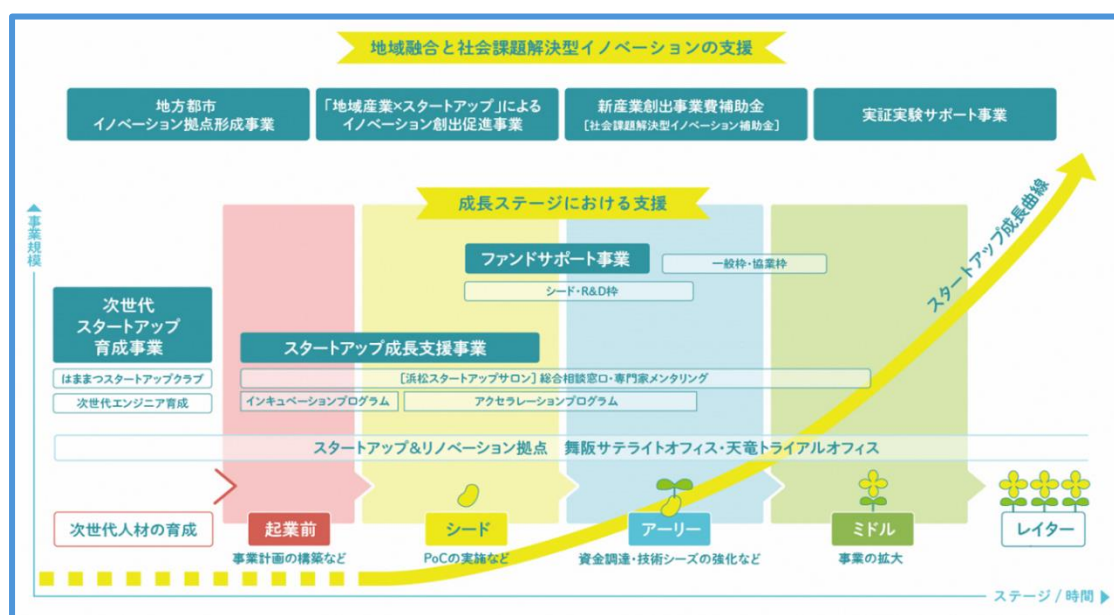
(1) 現状

浜松市では、まち・ひと・しごとの一体的・総合的な創生により、「元気なまち・はままつ」を実現し、人口減少からの脱却、転換を図るため、市の産業ビジョン「はままつイノベーション構想」に基づき、スタートアップ支援や、オープンイノベーションの推進に取り組んでいる。また、教育面では、理系の静岡大学浜松キャンパス、浜松医科大学、光産業創成大学院大学が存在し、産業界との連携が盛んで、静岡文化芸術大学など文系の大学と合わせて7大学が存在する。他地域の大学との連携事例も多く大学発ベンチャー企業も多く輩出している。

2022 年 11 月、政府により「スタートアップ育成5ヵ年計画」が策定され、スタートアップを取り巻く環境は大きく前進した。政府の動きに併せ、スタートアップ支援に力を入れる地方自治体も増えている。

一方、足元のスタートアップへの投資額は、関東圏が全体の8割以上を占めている状態が続くなど、依然として、首都圏等大都市にヒト・モノ・カネが集中している。このような状況の中で浜松市をはじめとする地方は、首都圏等大都市と競争することや地方同士で少ないパイを奪い合うことは得策ではない。首都圏等大都市との交流・連携を通じ、新しいアイデアやビジネスが次々と生まれ、そこで誕生した製品やサービス等を成長・発展させ、それを首都圏等大都市の発信力を活かして、全国・海外へ広く展開することが重要である。

(2) 浜松市の施策体系



(出典：2024 年 3 月 8 日浜松市『はままつスタートアップ・イノベーション拠点連携ビジョン』)

2. 産学官金の連携事業「A-SAP」

(1) 概要

A-SAP（エーサップ）産学官金連携イノベーション推進事業は、研究機関の知見を中小企業の変え、最速で望む未来へ到達できるよう設置された、静岡県の中企業のためのプロジェクト型技術支援事業である。光・電子技術を活用して中企業の新産業創出と既存事業の高度化を推進することを目的に、静岡県と浜松市の予算および研究機関と金融機関の協力を得て、フォトンバレーセンターが2018年より実施している。

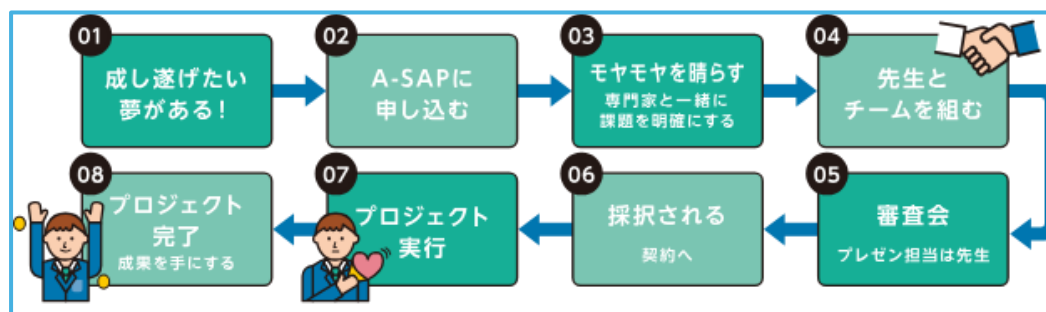
具体的にはA-SAPに、抱いているアイデアとその技術的課題を相談すると、最適な研究者を探し、課題解決のためのプロジェクト立案までフォトンバレーセンターが支援する。その後、研究者と一緒にプロジェクトを実施し、出来上がった試作品などの成果は依頼された企業に帰属するようになる。

プロジェクト期間は約半年、プロジェクトに関わる経費は最大500万円までフォトンバレーセンターから研究機関に支払われる。



(2) スキーム

中小企業者は、「A-SAP エントリーシート」により、アイデアや相談内容を簡潔に記載し、インターネット経由で随時、登録が可能であるが、3か月ごとの応募締め切りをもって以降のフェーズに移行する。



①申請フェーズ（期間は約1か月）

フォトンバレーセンターの関係者が、「A-SAP エントリーシート」に登録されたアイデアや相談内容に関する技術およびビジネス背景に関しヒアリングを行い、また支援機関の候補を探索する。相談内容がA-SAP事業に適合するかどうかをフォトンバレーセンターが判断する。

この段階で不適と判断された場合においてもアドバイスが受けられる。

②初期評価フェーズ（期間は約1.5か月）

研究機関のコーディネーターと依頼者が選択する金融機関関係者が、依頼者との面談や関連する技術・事業環境を調査し、それらの課題を明確化する。同時に研究者とともにプロジェクトの

実現性を検討する。

この調査・検討結果により採択可否が審査され、不採択と判断された場合においてもアドバイスが受けられる。

③プロジェクト検討フェーズ（期間は約 1.5 か月）

研究者等の中から課題解決に適した人材がプロジェクトリーダーとして選任され、依頼者および研究機関のコーディネーターと共にプロジェクト計画を作成する。その過程で、このプロジェクト計画の妥当性（技術面、経費、期間など）を審査し、場合によっては計画を見直す。

④プロジェクト実施フェーズ（期間は契約後約 6 か月）

プロジェクト実施にあたり、フォトンバレーセンター、研究機関、依頼者の三者で契約を締結し、プロジェクトリーダーはチームを結成、依頼者と協同でプロジェクトを実施する。

6 か月程度のプロジェクト活動の後、依頼者はプロジェクトの成果を獲得し、プロジェクトの成果報告として、プロジェクトリーダーと申請企業の動画を撮影・公開（Youtube）する。

【参考：成果公表の例】

ロボット用複合現実オフラインティーチング技術の開発

**ARAKI ENGINEERING**
株式会社アラキエンジニアリング

**静岡大学**
静岡大学工学部

- 実施期間	2021年5月～2022年2月
- プロジェクトリーダー	伊藤 友孝：静岡大学 工学部 准教授
- スカウト	高橋 一樹：静岡大学 イノベーション社会連携推進機構 産学連携推進部門 客員教授
- ビジネス財務コーチ	石塚 昇平：浜松磐田信用金庫



A-SAP 第9期プロジェクト成果インタビュー
（※アラキエンジニアリング × 国立大学法人静岡大学）

⑤フォローアップフェーズ

プロジェクト終了後から製品化までの間、必要に応じてフォトンバレーセンターは依頼者へのフォローアップを実施する。

（３）パートナー（教育研究機関等）

静岡大学、浜松医科大学、光産業創成大学院大学、静岡県立大学、宇都宮大学、静岡県立工業技術研究所、静岡理工科大学、岐阜大学、静岡文化芸術大学、豊橋科学技術大学、名古屋工業大学、静岡県立農林環境専門職大学、名古屋大学

（以上出典：A-SAP HP を参考に当研究所が作成。画像も同 HP より）

（４）特徴

- ・ 依頼者（企業）側が研究者を探す必要がない
- ・ 客観的な事前の審査により、「芽がありそうかどうか」についての評価が得られる
- ・ 「財務コーチ」として金融機関も参加することでプロジェクトについての事前理解もしくは企業としての研究開発に関する可否判断が得られる
- ・ 事業化に至る前の研究段階では依頼者は資金的な負担がない（少ない）
- ・ プロジェクトの前後で技術成熟度レベル（TRL：Technology Readiness Level）が把握され、プロジェクトの成果として評価できる
- ・ 研究機関側としては、多くの研究依頼の中から一定レベル以上の案件の研究に取り組むことができる

以上

【参考 URL】

浜松市スタートアップ・イノベーション拠点連携ビジョン

<https://www.forstartups.com/news/hamamatsu-innovation>

https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/documents/82920/renkei_vision.pdf

A-SAP

<https://www.hai.or.jp/pvc/asap/>